

会議録

会議の名称	令和4年度 第1回西東京市緑化審議会
開催日時	令和4年10月6日(木) 18時00分(18時30分) から20時30分まで
開催場所	西東京市役所 田無庁舎5階 502会議室
出席者	委員：伊藤会長、飯田委員、池田委員、緒方委員、荻草委員(欠席)、亀田委員(オンライン参加)、佐藤委員、椎名委員、菅原委員、高野委員、田巻委員、堤委員、松村委員、松本委員、村田委員(欠席) 事務局：みどり環境部長 白井、みどり公園課長 渡邊、みどり公園課 小澤、大島 支援委託業者：ランドブレイン株式会社 宮脇、伊藤
議題	(1)西東京市緑化審議会の運営方法について (2)会議録形式の決定について (3)傍聴の取り扱いについて (4)西東京市第2次みどりの基本計画策定について (5)その他
会議資料の名称	資料1 委員名簿 資料2 諮問書「西東京市第2次みどりの基本計画の策定」について 資料3 西東京市緑化審議会の運営について 資料4-1 西東京市みどりの基本計画 資料4-2 西東京市第2次みどりの基本計画の策定について 資料5 西東京市第2次みどりの基本計画に関するアンケートについて
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>※審議会の開催にあたり、委員の委嘱、会長と職務代理者の決定、審議会への諮問を実施</p> <p><u>開会</u> (会長) 議題(1)から(3)について事務局より説明をお願いいたします。</p> <p><u>議題(1) 西東京市緑化審議会の運営方法について</u> <u>議題(2) 会議録形式の決定について</u> <u>議題(3) 傍聴の取り扱いについて</u> ～事務局より資料3説明～</p> <p>(会長) 事務局の説明についてご質問やご意見等ないようなので、事務局の説明のとおり、会議録については発言者ごとの要点記録とし、傍聴人は5名とします。では、次に議題(4)に</p>	

ついて事務局説明をお願いいたします。

議題(4) 西東京市第2次みどりの基本計画策定について

～事務局より資料4-1、資料4-2、資料5説明～

(会長)

資料4-2の1ページ目に1年半かけて計画を立てるとあるが、準備は夏前から始まっており、本日第1回、年末に第2回の審議会を行う予定である。資料5には具体的な設問があるが、総合計画で検討されているテーマ、シンポジウム、子どものワークショップでいただいた意見を見ると、子どもや大人たちが西東京市の緑地・みどりに関する関心が高いということがわかっている。アンケートについてお気づきの点があればご意見をいただき、アンケート内容については事務局に任せたい。年末に課題の共有をし、年度末に目標、将来像、方針、事業メニューといった計画の構成を考え、来年の8月に骨子を作り、11月にブラッシュアップを行い、来年末にパブリックコメントを出す予定である。本日はそれぞれの立場から、計画を検討するうえで必要な視点についてご意見いただきたい。

(委員)

ひとつはゼロカーボンシティの宣言について、みどりは二酸化炭素の吸収だけでなく排出抑制の効果もあることを強調した方がよい。例えば、市民農園や直売所が近くにあることで食料の輸送距離を短縮でき、排出抑制につながる。これは西東京市の強みといえる。

もうひとつはスケジュールや計画の位置付けについて、みどりの基本計画以外にもさまざまな計画が同時進行で改定されているが、各計画とのすり合わせのタイミングをスケジュールに入れていただき、それぞれの計画が確定する前に整合を図ってほしい。

(事務局)

いくつかの計画を同時進行で見直しているが、総合計画を中心に各検討委員会で整合を図っている。説明がなかったが、他の計画にも反映できるように取り組んでいく。

(会長)

計画策定にあたっては、庁内の連携も考えていただきたい。

(委員)

公園緑地の財源の見通しが必要なのではないか。農地については、後継者がいるかどうか。農家の経営については、さまざまな団体が借りることができるようになったため、都市農業の採算性を考えて農地を残すというような新しい展開が必要になってくる。また、今後はドローン等を使ったみどりの量の把握ができるようになってくると予想される。そのようなみどりの量の計測技術の進歩も見通しておかなくてはならない。財源が限られて

いるなかで、みどりをどのようにして増やせるかという具体的なメニュー、戦略、動機づけを示していただきたい。

(会長)

関連計画として総合計画や都市計画マスタープランに関する計画等を挙げていただいたが、農業振興計画の計画期間はいつまでなのか。次期計画の策定はどのようなスケジュールになっているのか。

(事務局)

農業振興計画も今年度と来年度で見直しを行っており、10年を計画期間としている。

(委員)

みどりの基本計画では、「みどりのまちづくり」を推進する、と強く決意表明をしていきたい。海外では、みどりを主役として都市再生を行っている事例が多くある。ビジョンを示し、みどりをまちづくりに活かしていくことが必要である。

ワークショップが難しい中であるため、アンケートの内容や周知を工夫して実施してほしい。市民が、市の企画した事業に受身的に参加するのではなく、自分たちで企画して自分事として活動できるんだと思えるような内容としてほしい。また「農」というキーワードをもっと入れてほしい。

みどりについては、量をなかなか増やせない中、質を高くすること、そのための目標設定が重要となる。グリーンインフラは、自然の機能を社会課題の解決に活かすという意味である。みどりには、気候変動対策や生物多様性、コミュニティの形成、心身の健康への寄与、教育、農産物の生産、防災等さまざまな機能があるが、資料ではそれらが網羅されていない。各機能の目標設定がみどりの質の目標設定に重なるとよい。

また、SDGsについて取り上げるならば、SDGsウエディングケーキモデルを使って説明してほしい。環境－地域の生態系を保全する、社会－コミュニティを活発化させる、経済－地域経済の活性化、これらを産官学民のパートナーシップで進める、それにより持続可能な地域づくりが可能となる、というのが、SDGsウエディングケーキモデルの示す概念である。これらのプロセスは、公園緑地や農地など、みどりのある空間で実現できる。そういう視点でSDGsとみどり空間の関係性を示してほしい。

(会長)

アンケートについては、既存調査を補完するものとなる。市民意向の深掘りについては、総合計画等が出た意見を入れることも可能である。

(委員)

現計画は基本に忠実な構成となっている。最近では自治体ごとの特色を出そうとしてい

るところもあるが、この基本形では各地域の目指す姿と目標数値がある程度入っており、ここは次の計画でも守っていきながら、新しい視点を入れていく必要があると考える。

民間がつくるみどりと公共がつくるみどりと、誰が主体でつくるみどりとということを明確にし、記載することで具体的なイメージができる。西東京市において、蓄積され、守られてきたみどりをどのように維持していくか、参加者が高齢化していく中でどのように次世代へ継承していくかについても盛り込むべきである。今回は大学生も参加しているので、若者目線でどのようなみどりを活かしたまちに住みたい、あるいは実現していきたいか、みどりの目標設定を自分事として実現したいと思える形にまとめられるとよいのではないか。

(委員)

アンケートの内容について、最後のページの「公園をどのように使うことが多いか」という設問の内容は物足りない。問4「あなたはどのようにみどりのまちづくりに参加してみたいと思うか」はあってもいいと思うが、次の問5の「参加できないとしたらどんな理由」はいらぬ。もう少し焦点を絞って、みどりを増やすためにどうするかということに重点を置いてほしい。

(会長)

みどりを増やすという視点と、市民として参加するという視点が大事である。アンケート内容については可能な範囲で検討して欲しい。

(委員)

資料で提示されているアンケートは、実施されたということか。

(会長)

アンケートはこれから実施する。それとは別に公園緑地に関する話ではない市民調査があり、その情報も含めて共有できるようにしたい。資料5については新しく用意しようとしているアンケートになる。

(委員)

この夏、子どもたちにカブトムシがどのような植物を好むかという講座をした。小学校の5、6年生が対象だったので、みどりに関心があった。その様子を見てみると、みどりが減っている状況なので、どのように増やすのかと聞かれるとわからなくなるではないか。子どもたちにみどりに親しんでもらえるように力を入れている最中であり、みどりに関する考えを出せるのかという疑問がある。

(会長)

みどりを増やすのは簡単ではない。公園緑地・みどりの中で、農地についても評価して、市民にとっての多面的な役割を考えることも必要なのではないかと思った。

(委員)

屋敷林の保全に取り組む立場と西東京市の生活者の立場として見ると、農地が減っているのが気になる。これから本当に増やしていけるのか、財源がどれだけあるのか。例えばマンションを建築する場合に何割をみどりにしてほしいなど、みどりの減少をどのように防ぐのか伺いたい。

コロナ以降、体験農業の希望者が増えており、区画を増やしている状況である。パソコン作業だけでは息が詰まるので、このような場所で息抜きをしたいというような声をよく聞く。このような状況にあるため、農地は今一番守れる可能性があると思う。農地の二酸化炭素の吸収効果もかなりあると思うので、農地の保全は非常に大切ではないか。また、地産地消も大切で、目の行き届くところで育てられた野菜は、農薬も少ない等の情報も入ってくる。以前、産業に関する交流会においても、農家から情報発信をしてはどうかと提案したが、そのようにして農家を守っていく必要がある。体験農業でも、子どもがみどりを好きになったり、無農薬野菜がどれだけ美味しいか実感したりすると、農業をしてみたいという方が増えている。高齢化している農家でも、区画整理をして貸せば、維持は大変ではない。これから都市農業は人気が出る可能性があるのではないか。

(委員)

みどりというと公園をイメージしていたが、農地等がみどりを養う場として考えられていると初めて知った。西東京市にはみどりが多いが、それに対して何をすればよいかわからなかった。家の中でゲーム等をして活動が終わってしまう子どもも多いので、もっと公園に行き行って遊んでほしいと思う。それぞれの世代でみどりに対する意識が高められたらと思う。

(委員)

本計画を策定していく中で、みどりに親しみ、みどりが好きと言える子どもをどのように育てていくかが重要だと思う。西東京市に住んでいて、公園や生産緑地があると知っている人は多いが、具体的にどのように関わっていけばよいかわからない人が多い。自分事として、みどりを好きになったり、関わったりしていけるまちになればいいと思う。

(会長)

今後も、大学で学んでいることを踏まえ、学生ならではの率直な意見を伺いたい。

(委員)

みどりを守ることに、最近では世代交代を機に農地が宅地になる例が多い。宅地に

なる前に、近隣の農家が一緒になって取り組んであげたり、会社が一緒に支えてあげたりということができればみどりが守れるのではないか。

アンケートについて、学校に渡して書いてもらうという方法では、よい回答がもらえないのではないか。普段からみどりに関わりのない子どもたちのアンケートでは意味がないのではないか。イベント等と合わせてアンケートができれば効果が高いと思う。

(会長)

アンケートの配布方法について、事務局から説明していただきたい。

(事務局)

市内の小学校5年生、中学校2年生に配布する。興味のない子どもにも回答してもらうことによって、子どもの考えていることを把握したいと考えている。イベント等での実施についても検討させていただきたい。

(会長)

具体的な活用方法や新しい取組について聞くのであれば、アンケートの総量・平均の回答よりも、普段からボランティアとして活動されている方々の意見が大切ではないか。総合計画のワークショップにおいても、このような取組ができるのではないかという建設的な意見が出された。そこに新たな可能性があるのではないかと思っている。

アンケートは、総量・平均としてどのようなデータがあるのかを把握する意味合いが大きい。それとは少し違った情報についても把握できるように事務局には準備をお願いしたい。

(委員)

まちのイメージのギャップを改善したいと思い、本会議に参加したが、他の委員の意見を聞いて、解決する糸口になるのではないかと思ったことがいくつもあった。みどりの質や量よりも行動の量、公的なみどりよりも民間のみどりの活用、農地の量よりも質が大切、このようなことを考えていけばギャップが埋まるのではないかと思った。同時に、これまでの計画の延長では実現できないとも感じた。

(委員)

みどりと文化は離れたテーマではない。みどりを守ると同時に文化も守っていける計画にしたい。どこかのタイミングで、歴史の中で人とみどりの関わり方をもう一度見直す場があるといい。例えば、下野谷遺跡の話をするときに、彼らが自然とうまくバランスをとることによりムラを維持していたということを伝えるようにしたい。そのような資源が西東京市にはたくさんあるので、みどりと人との関わり方を見直すことができるワークショップ等をしていきたい。今後のみどりの残し方、みどりと関わり方を考えていける計画

になるといいと思う。

(事務局)

次回の審議会の日程については、欠席委員の予定を照会し、後日連絡する。

4 閉会

(会長)

以上で第1回西東京市緑化審議会を閉会する。

以上